

水試の

# 何でも魚ツキング

No.59

## 大型クラゲの近況



### 今年の状況

平成14年から毎年日本海に秋から冬にかけて大量に来遊し底びき網漁業、定置、さし網等の網漁具漁業の操業の妨げとなっていた大型クラゲ(主にエチゼンクラゲ)は、今年さっぱり見ることがありません。10月27日現在のJAFIC情報でも、1週間前の21日に島根県の隠岐島西沖で1〜2個沖合底びき網漁船に入網しただけの報告しかありません。平成16年も少なかったとのことですが、10月下旬になっても能登半島以東で1個体も確認できないような状況ではなかったと思います。燃油高で一層の漁獲効率化を図る必要がある時代であり、網漁具漁業者にとっては喜ぶべき状況ですが、はえなわ漁業の秋漁の主役となってきたサワラも遅れているのか、漁は少なく「大型クラゲに付いてくる」との見解が当たっている感じがしないでもありません。ただし今年6月から8月にかけてと10月後半に小さいミズクラゲがスポット的に大量出現し、排出作業が大型クラゲ以上に大変だった船もあったと聞き、初めてのことであり驚いています。

大型クラゲが来ない原因としては、第1に「発生源と考えられる中国本土沿岸が北京オリンピック開催にあたり排水の浄化や海面の清掃作業をしたおかげで発生量が大きく抑えられた」、第2に「まだクラゲが小さい内に異常発生したフグ等の魚に捕食され、幼生の数が大きく抑えられた」等いろいろ考えられますが、まだ、調査の段階で原因はわかっていません。

傘の大きさが2mにもなり1年で死んで

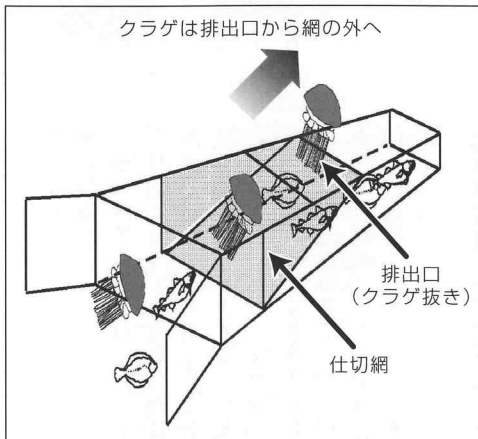
いく生物であり、日本海に入ってから大きくなってから底びき網漁船のピアノ線の網地で掃海し細切れにするよりは、対馬海流に乗って北上する前に消滅させるのが一番の策であり、来年以降も東海(東シナ海)海域が大型クラゲの発生量を抑えることができる良い環境が続くことを切望しています。

### 水産試験場の大型クラゲ対策試験の状況

#### 1. 底びき網漁業の対策網の状況

水産試験場では平成16年度から図のような底びき網漁業のクラゲ対策網試験に取り組み、途中経過ですが主要魚種の保持率「魚取部へ入網重量÷(魚取部へ入網重量+排出量)×100」を表のとおり示しました。魚の習性によってクラゲの排出口の方向や仕切網の目合を変えることが大切ですが、クラゲが小型化し仕切網の目合を小さくするとマダラ等多くの魚が仕切を察知して逃避することも確認されています。詳しい結果は年度末に関係漁業者にお知らせできるように作成しています。

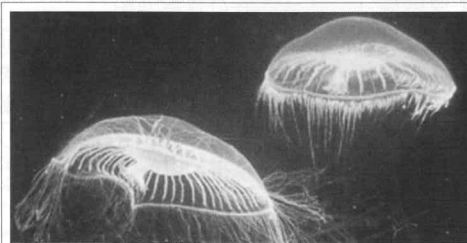
図 クラゲ対策網のイメージ図(上抜きタイプ)



#### 2. 分解試験の結果

波打ち際に漂着したクラゲが何日で分解消滅するか調査では5日程でほぼ消滅し海岸がクラゲの山にはならないことが判りました。

なお、今年、スポット的に大量出現したミズクラゲの中にはノーベル賞で話題になったオワンクラゲ(写真)もかなり混じっていました。



写真提供: 鶴岡市立加茂水族館

水産試験場 浅海増殖部 佐藤 洋

魚種\網の種類	主要魚種の網の種類別保持率				
	上長60	上短60	下長60	下短60	上短40
マダラ	88%	88%	87%	100%	49%
ハタハタ	90%	89%	97%	96%	68%
スケトウダラ	83%	88%	97%	100%	69%
ホッケ	96%	85%	98%	95%	48%
アカガレイ	91%	87%	90%	100%	77%
タコ	100%	98%	82%	100%	95%
ホッコクアカエビ	100%	81%	97%	—	82%
マダイ	94%	86%	89%	—	53%
チダイ・キダイ	98%	100%	—	—	68%
アンコウ	99%	92%	99%	71%	73%
ヒラメ	100%	100%	—	—	100%
網の種類の説明					
上長60	: 上抜き、長い仕切り網目合:			60 cm	
上短60	: 上抜き、短い仕切り網目合:			60 cm	
下長60	: 下抜き、長い仕切り網目合:			60 cm	
下短60	: 下抜き、短い仕切り網目合:			60 cm	
上短40	: 上抜き、短い仕切り網目合:			40.5 cm	